**様式第５-１号**

取組実施者で秋肥・春肥、各市町村分の取組状況をまとめ、

令和６年12月上旬まで山形県再生協に直接提出して下さい。

※令和5年度に様式6号と同時に提出して頂いても構いません。

記載例

令和５年１２月１日

山形県再生協議会長　殿

所在地　山形市松波２-８-１

取組実施者名　山形肥料店（山形市）

代表者氏名　村山太郎

令和５年度肥料価格高騰対策事業取組実施状況報告書

肥料価格高騰対策事業実施要領（令和３年12月20日付け３農産第2156号農林水産省農産局長通知）第12の２（２）の規定に基づき、別添のとおり報告する。

（添付資料）

・様式第５－２号

・様式第５－３号

・その他農政局長等が必要と認める書類

肥料価格高騰対策事業取組実施状況報告書

第１　取組実施者名

|  |
| --- |
| 山形肥料店様式5－2号を確認し、記載して下さい。 |

第２　事業の取組概要

①どのような取組を実施したのか

②どの程度の化学肥料の低減が図られたか、件数、面積、施肥量等の数値をできるだけ入れて記載して下さい。

|  |  |
| --- | --- |
| 参加農業者数（件） | 取組面積（ha） |
| ５ | 41 |

　第３　取組実績

|  |  |
| --- | --- |
| 　取組メニュー | 取組の実績 |
| ア　土壌診断による施肥設計 | このメニューを選択した農業者のほとんどが令和５年の春までに土壌診断を行い、令和５年度の施肥設計に反映した。このメニューを選択した農業者のおよそ半数は今回新たに取組を実施した。今回参加農業者のうち5件でりん酸、加里の減肥を行った。 |
| イ　生育診断による施肥設計 |  |
| ウ　地域の低投入型の施肥設計の導入 |  |
| エ　堆肥の利用 | このメニューを選択した農業者の多くは牛糞堆肥の施用を、およそ２割が鶏糞堆肥の施用を行った。牛糞堆肥の施用はほとんどの農業者が実施済みであったが、鶏糞堆肥の施用は今回新たに取組を実施した農業者がほとんどであった。鶏糞堆肥を施用した農業者は平均して窒素成分2kg/10a程度を化学肥料の代替として施用した。 |
| オ　汚泥肥料の利用（下水汚泥等） |  |
| カ　食品残渣など国内資源の利用（エとオ以外） |  |
| キ　有機質肥料（指定混合肥料等を含む。）の利用 |  |
| ク　緑肥作物の利用 |  |
| ケ　肥料施用量の少ない品種の利用 |  |
| コ　低成分肥料（単肥配合を含む。）の利用 | このメニューを選択した農業者の多くは水稲でL型肥料の施用を行った。ほとんどの農業者はこれまでも実施してきた取組みの継続であった。 |
| サ　可変施肥機の利用（ドローンの活用等を含む。） |  |
| シ　局所施肥（側条施肥、うね立て同時施肥、灌注施肥等）の利用 |  |
| ス　育苗箱（ポット苗）施肥の利用 |  |
| セ　化学肥料の使用量及びコスト節減の観点からの施肥量・肥料銘柄の見直し（ア～スに係るものを除く。） |  |
| ソ1　地域特認技術の利用（田畑輪換栽培） |  |
| ソ2　地域特認技術の利用（化学肥料不使用の取組）　※同一圃場で他の取組との重複不可 |  |
| ソ3　地域特認技術の利用（化学肥料由来窒素5割以上低減の取組）　※同一圃場で他の取組との重複不可 |  |

（注）参加農業者が、実施期間を通じてどのような取組を行ったか、また、その結果として、取組前と比べてどの程度の化学肥料の低減が図られたかを、使用記録等を参照し、できる限り定量的に記入してください。

第４　化学肥料の使用量の低減に向けて継続的に取り組むための取組計画

|  |
| --- |
| 　参加農業者の多くは、「土壌診断による施肥設計」、「堆肥の利用」、「低成分肥料の利用」のメニュー－の取組を行った。今後、継続して化学肥料の使用量を低減するため、「土壌診断による施肥設計」、「堆肥の利用」、「低成分肥料の利用」の一層の取組強化を図るとともに、さらに「有機質肥料の利用」に取り組むよう参加農業者へ指導・呼びかけを行う。①どのような取組を実施したかまとめて記載、②今後継続予定の取組みや強化予定の取組みについて記載して下さい。 |